

福島復興支援視察交流ツアー

震災・原発事故から9年目を迎える福島を訪ねて

富山県生協では、東日本大震災復興支援の一環として、福島の被災地域を訪れ現地の方からお話を聞く視察交流ツアーを毎年開催しています。2019年度も、コープふくしまさんのご協力のもと、地震による津波と原発事故の被害を受けた太平洋沿岸の地域を中心に視察交流ツアーを行いました。

開催日 2019年11月29日、30日

参加者 31名(県生協からは16名)

主催 富山県生協、CO・OPとやま

企画協力 コープふくしま、富山県生協連

避難指示区域のイメージ
(平成31年4月10日時点)



1日目 11月29日(金)

富岡町の名所である「夜の森の桜並木」の周辺をバスの車窓から見学しました。この桜の子孫である苗木をいただき、本部・富山センターの正面玄関前に植樹してあります。

ツアー当時は*帰還困難区域に指定された桜並木に立ち入ることはできませんでしたが、2020年3月10日



夜の森の桜並木

でJR夜ノ森駅を含む桜並木一帯の避難指示が解除されることになりました。

しかし、避難指示の解除が進む一方で町へ戻った住民の方は1割程度と、帰還は進んでいません。

※放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域



東京電力廃炉資料館

同じく富岡町にある「東京電力廃炉資料館」も見学しました。原発事故を振り返りその反省と教訓を伝える展示や、廃炉作業現場の現状を知ることができる展示を通して、原発事故という面から福島に起こったことを知ることができました。

1日目の最後は、一部で避難指示が解除された浪江町を訪れました。大きな津波の被害を受けた請戸地区には津波で壊れた建物が残っており、震災から8年が経ったツアー時もほとんど更地のままでした。



浪江町請戸地区に残っている請戸小学校校舎。津波で1階部分が破壊された。

営業が再開された浪江駅の周辺にも住人のいない店舗などが崩れかけたまま残っており、富岡町と同じように住民の方々の帰還は進んでいません。

「避難指示の解除=帰還や復興」ではない難しさを感じました。